



木戸 俊治

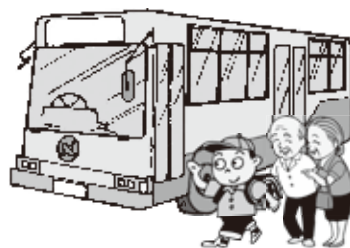
### 交通弱者の移動手段の確保、公共交通対策は

**問** 各種住民アンケート調査でも能勢に住み続けたいと思わない理由として、交通の便が悪いとの回答が最も多く、人口減対策の大きな課題の一つである。

**答** そこで、本町における公共交通の現状と対策及び交通弱者の移動手段の確保について伺う。  
**問** 町内における路線バスの利用状況は、便数減、料金が高い等の理由で減少傾向である。過疎地有償輸送の利用人員実績も半減しており、地方バス路線維持費補助金は増加傾向である。

**問** スクールバスの運行が始まるが、将来的に住民の利用等も視野に入れ検討しているか。

**答** 児童生徒の送迎、学校活動での運行を第一としているが、地域交通の一つとして、副次的な利用も視野に入れ検討したい。スクールバスの目的外使用については国の事前承認が必要であり、手続きは進めている。



**問** 地域の実情に応じた、よりよい交通システムの構築に向け、協議会等を立ち上げ議論を本格化させる用意があるか。

**答** 新たな協議会の立ち上げについては、関係機関との連携が不可欠であり、「まち・ひと・しごと創生に関する懇談会」での議論も踏まえ適切な対応をしたい。

**問** 交通問題は、まちづくり全体として考える必要があり、今回の総合戦略策定の中でどのような手順で具体化するのか。

**答** 契機はスクールバスの運行が始まる4月という事で考えている。予算的なこと、民間のバス、タクシー等の関連もあり、十分協議をした形の中で進めていくべきであり、総合戦略の策定の期間の間に方向性を出せるようやっていきたい。

## 一般質問



西河 巧

### 地方創生、地域の活性化について

**問** 28年度予算編成における地方創生、地域の活性化に向けて、能勢町としてどのような取組みをして行こうとしているのか伺う。

来性、地域性、直接性、結果重視と、そういった原則に基づき、地方創生の大きな潮流を生み出す施策を盛り込んで行きたいと考えている。



**答** 本町において、地域資源を守っていく上で、従来の取組み以上に、挑戦というものが求められる状況にあると考えている。現在策定中の総合戦略を踏まえ、自立性、将



**問** 地産地消の取組みについて伺う。能勢町では農産物をはじめ、様々な物が生産されているが、地元での消費が少ないように思われる。生産、販売、地元消費という好循環の仕組み作りが出来れば、地域の活性化につながると思う。また、学校給食における地産地消の取組みについて伺う。



**答** 新学校の給食については、地産地消ということの推進と、もう一つは食育という観点から、肉や野菜といった生鮮品のほか、米なども可能な限り地元調達を進めて行くということを基本にしているところである。